

みんなであつなぐ

ダム水源地ネット

2001.9月号

9

平成13年度 森と湖に親しむ旬間・イベント特集号

散歩道 / 水源地の大切さを若人が認識
こちらダム水源地 / 「石淵湖ふれあいアドベンチャー」開催 ほか
特別企画 森と湖に親しむ旬間 / パネルディスカッションを振りかえって



全国行事「森と湖のある風景画コンクール」金賞 中島 早紀

全国行事
平成13年度 全国森と湖に親しむつどい (7月21日・22日)



好評を博したカヌー教室。



活気あふれる魚のつかみ取り。



湖畔園地エリア。メインステージをはじめ出店や展示コーナーのテントが軒を連ね多数の来場者でにぎわった。



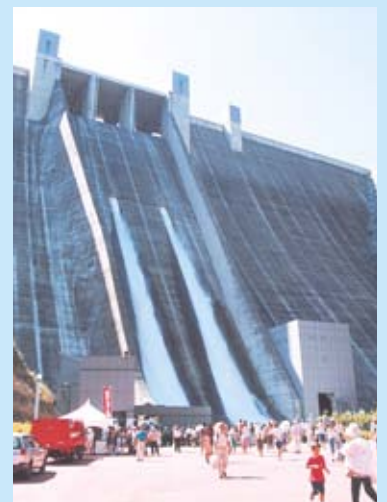
岡崎会長から表彰状を受け取る受賞者たち(風景画コンクール・流域経営功労賞)



シンポジウム会場風景 (写真提供 神奈川新聞社)



「忍たま乱太郎」のキャラクターショーは子どもたちに大人気。



放流に見学者の歓声がわきおこった。

全国森と湖に親しむつどい — 2

今月の行事 — 4

散歩道(パセオ)

水源地の大切さを若人が認識 山口 静雄 — 5

ワンポイント・ゼミナー

「新しい時代のダム管理を考える研究会」
報告について — 6

こちらダム水源地

「石淵湖ふれあいアドベンチャー」開催 — 8

「はやま湖」森と湖まつり 2001大盛況 — 9

平成13年度「森と湖に親しむ集い」 — 10

トピックス — 11

森と湖に親しむ旬間・特別企画

全国行事
パネルディスカッションを振りかえって — 12



写真提供 神奈川新聞社

森と湖に親しむ旬間・全国行事紹介

【花とみどりの水源地コンテスト】・【流域経営功労賞】 — 14

【今月の表紙】

「森と湖のある風景画コンクール」金賞受賞作品

小学生高学年の部 中島 早紀(高知県)「きれいな大渡ダム」大渡ダム

編集事務局: 財団法人 ダム水源地環境整備センター ダム広報センター

所在地: 〒102-0083 東京都千代田区麴町2-14-2 TEL 03-3263-9051 FAX 03-3263-9085

http://www.wec.or.jp/ E-mail:koho@wec.or.jp

平成13年度「森と湖に親しむ旬間」は、「水と緑と心のハーモニー」の旬間統一テーマの下、自然豊かな森と湖に親しみ、自然と人、人と人の心の調和を通して森と湖の大切さを理解することを目標に展開されました。

全国行事「全国森と湖に親しむつどい」

「森と湖 かながわ2001フェスタIN宮ヶ瀬湖」と銘打って、7月21・22日の両日、開催されました。2001年、新世紀の幕開け。美しい水辺空間に包まれる宮ヶ瀬湖において、人々と大切な水や自然が調和し、都市と水源地が相互に交流することが主要な目的とされました。

会場となった宮ヶ瀬ダム(宮ヶ瀬湖)湖畔会場(宮ヶ瀬湖畔園地エリア・ダムサイトエリア・鳥居原エリア)には約2万人が参集し、熱気あふれる交流を展開しました。

このフェスタを通じて、森林やダム、河川等の重要性についての国民の関心と理解はさらに高まったものと考えられます。

記念式典

21日(土)午後4時、地元合唱団の爽やかなコーラスに乗って、シンボルフラッグが掲揚され、記念式典が華やかに開幕。主催者挨拶、来賓祝辞に続き、風景画コンクール等の入賞者・受賞団体の表彰、また次期開催地(山口県美和町・広島県大竹市・弥栄ダム)が紹介されました。

シンポジウム

22日(日)午後1時からは、鈴木健二(青森県立図書館長)さんによる「水と緑が織りなす人々の絆」と題する基調講演に続いて、横島庄治(高崎経済大学教授)さんをコーディネーターに人と川との関わり、森・水・自然環境、流域間交流・連携による地域活性化について多様な議論が展開、課題解決の方策が提起されました。

個別イベント

宮ヶ瀬湖畔会場において、地元物産展、ダム施設見学会、木工教室、湖畔コンサート等、また、カヌー教室、花火大会等参加型の多彩なプログラムを用意され、参加者は、思い思いに、湖畔イベントを楽しみ満足気でした。

9月

- 北海道
- 30日(日)/サンルダム湖岸緑化植樹会(場所:北海道下川町)
主催/サンルダム建設事務所【☎0166-23-5719】内容/サンルダム湛水池内の常時満水位~サーチャージ水位間の草地に生態学的混播法を用いた植樹を地元住民と連携し行う。
- 《関東》
- 23日(日)/草木湖一周マラソン全国大会(場所:群馬県東村総合運動公園)主催/全国マラソン連盟、全国マラソン連盟群馬支部【東村教育委員会☎0277-97-2721】申込み終了。
東村には草木ダムがある。
- 23日(日)/千葉県民体育大会 カヌー競技(場所:千葉県小見川町海洋センター前)主催/千葉県体育協会(黒部川総合開発)
【千葉県カヌー協会事務局 ☎0478-83-0101】
- 《中部》
- 下旬/長谷村わくわく会議(場所:長野県長谷村)主催/長谷村・三峰川総合開発工事事務所・天竜川上流工事事務所・天竜川ダム統合管理事務所・長野県伊那建設事務所 内容/長谷村住民60名が美和ダム湖や三峰川の将来を語り合い将来像を手づくりで作りかえていく会議。
【長谷村役場建設課☎0265-98-3120】
- 《中国》
- 下旬/土師ダム自然観察会(場所:土師ダム生態湿地公園)主催/土師ダム管理所【☎082652-2455】内容/地元小学生を対象に、昆虫類(主にトンボ)の採取・観察・標本作り等を行う。

10月

- 《北海道》
- 9日(火)/幾春別川クリーン作戦(場所:北海道三笠市)主催/三笠の湖川・緑を愛する会 内容/桂沢ダム堤体下流から幾春別川流域のゴミ拾いを実施する。
【三笠市政策推進係☎01267-2-3181】
- 9日(火)/緑の回廊づくり植栽事業(場所:北海道三笠市桂沢ダム下流 萱野橋周辺)主催/三笠の湖川・緑を愛する会
内容/地域の保育所と町内の方々々が植栽を行う。【三笠市政策推進係 ☎01267-2-3181】
- 《東北》
- 14日(日)/月山ダム竣工式(場所:山形県朝日村)主催/東北地方整備局 内容/竣工式典。【月山ダム工事事務所☎0235-24-2496】
- 14日(日)/川内高原まつり&ベコまつり(場所:青森県川内町野平高原キャンプ場)主催/青森県川内町【水産商工課☎0175-42-2111】川内町には、川内ダムがある。
- 中 旬/平成13年度森吉山ダム第 期開放セミナー(場所:秋田県森吉町)主催/森吉山ダム建設促進期成同盟会・森吉山ダム工事事務所【☎0186-72-3015】内容/「菅江真澄の足跡について」講演および現地見学。
- 《関東》
- 1日~11月下旬(予定)/ハツ場ダム周辺地域歴史的資源の探索イベント(場所:群馬県長野野原町・吾妻町)主催/ハツ場ダム工事事務所 内容/地元関係者と下流受益都県の人々が水没関係地区を散策しながら、地域のよさを認識し地域の活性化とダム事業への理解を深める。【ハツ場ダム工事事務所 事業計画課・堀口☎0279-82-3104】
- 《北陸》
- 3日(水)予定/宇奈月ダム竣工式(場所:富山県宇奈月町)
主催/北陸地方整備局【黒部工事事務所総務課☎0765-52-1122】内容/竣工式典。
- 19日(金)/奥三面ダム竣工式(場所:新潟県朝日村)主催/新潟県

- 内容/命名式、記念放流等を行い、朝日村体育館で工事完了報告会を行う。【村上土木事務所 ☎0254-53-8945】
- 中 旬/第10回宝水湖まつり(場所:石川県宝立町)
主催/同実行委員会【実行委員長 宮前☎0768-84-2247】
内容/小屋ダム湖周辺でまつたけご飯、パーベキュー、ダム一周散策、健脚マラソン、ダム見学、吹奏楽演奏、等。
- 《中部》
- 14日(日)/星のふるさと 秋まつり(場所:岐阜県藤橋村藤橋城広場)主催/藤橋村商工会【☎0585-52-2513】藤橋村には横山ダムがある。
- 《近畿》
- 14日(日)/吉野杉フェスタ(場所:兵庫県芦屋市を予定)主催/樹と水と人の共生フェスタ2001inかわかみ実行委員会
内容/吉野林業などについて理解してもらうための展示会。物産展やイベントも開催。【川上村林業建設課☎07465-2-0111】川上村では大滝ダムを建設中。
- 《中国》
- 6日(土)/きのこがりの集い(場所:鳥根県広瀬町山佐ダム周辺)主催/山佐ダム野営場等林間休養施設管理組合 内容/ダム周辺の雑木林で講師を招いて行う、きのこがり。きのこ汁無料サービスあり。【広瀬町役場山佐支所☎0854-35-0129】
- 8日(月)/温井ダム竣工式(場所:広島県加計町温井ダム)
主催/中国地方整備局 内容/ダム事業者、利水関係者、地元関係者でダムの竣工式を実施。【温井ダム工事事務所☎08262-2-1501】
- 13日(土)・14日(日)/第2回 アクアフェスタin福富(場所:広島県福富町)主催/同実行委員会 内容/「水と食」をテーマに公民館文化祭と福祉まつりを合同で実施。【福富町教育委員会 ☎0824-35-3103】福富町には福富ダムがある。
- 18日(木)予定/ダムと地域づくりシンポジウム(場所:鳥取県民文化会館)主催/鳥取県【河川砂防課☎0857-26-7386】
内容/殿ダムが、東部・鳥取市に果たす役割等、県民理解を深める目的で開催。
- 中旬~11月下旬/奥津の秋とダム見学(場所:岡山県奥津町)
主催/苫田ダム工事事務所【調査設計課 ☎0868-28-2544】
内容/土・日曜日に一般を対象としてダム工事現場のバス見学会を実施する。
- 《四国》
- 9月~11月(10回)/香川用水水源巡りの旅(場所:徳島県池田町池田ダム・高知県土佐町早明浦ダム)主催/香川県【企画部水資源対策課(代) ☎087-831-1111】内容/香川県の中学1年生を対象に、香川用水の水源となる早明浦ダムや取水地点である池田ダムを見学。
- 10日(水)/吉野川水源の森交流事業(場所:高知県本山町早明浦ダム周辺)主催/四国地方整備局・四国4県・地元町村
内容/四国4県の受益地区の人々が水源を訪れ、植樹等を通して水源地域の方々との交流を図るとともに、水源林の保全を図る。【吉野川ダム統合管理事務所☎0883-72-3000】
- 《九州》
- 上旬~中旬/氷川ダム管理所開所式(場所:熊本県泉村)主催/氷川ダム管理所【☎0965-67-2530】内容/氷川ダム再開発事業に伴う新管理棟の開所式を行う。
- 11日(木)/萱瀬ダム竣工式(場所:長崎県大村市)主催/長崎県【土木部河川開発課☎095-823-3280・諫早土木事務所☎0957-22-0010】大村市・長崎市 内容/ダム竣工式
- 13日(土)~15日(月)/菊池秋祭り(場所:熊本県菊池市)
主催/同実行委員会 【菊池市商工観光課☎0968-25-1111】
菊池市には竜門ダムがある。
- 14日(日)/市制60周年記念「萱瀬ダム」完成記念ウォーク(場所:長崎県大村市)主催/大村市・実行委員会【☎0957-53-6090】内容/萱瀬ダム事業の完成を記念してのイベント。30km、10km(2コース)。

水源地の大切さを若人が認識

山口 静雄

神奈川県 清川村長



21世紀初頭の記念すべき年に、「人と自然都市と水源地域が共生する新世紀」をテーマに、7月21日、22日の両日、「森と湖神奈川2001年フェスタIN宮ヶ瀬湖」をメイン会場の清川村宮ヶ瀬湖畔園地、愛川町宮ヶ瀬ダムサイト、津久井町鳥居原など4会場で開催しました。

美しい自然があふれる宮ヶ瀬湖を通じて、都市と水源地の理解と交流を深めることが狙いでありましたが、会場が首都圏近郊に位置していることから、大勢の人々が訪れ大盛況でした。

清川村のメインステージでは、地元の清流太鼓などエネルギー溢る演奏や、都市部から参加した、横浜市立下野庭小学校はマーチングバンドによる華麗な演奏を披露してくれました。

21日、午後4時から岡崎神奈川県知事をはじめ多くの関係者出席のもと、記念式典が盛大に行われました。アトラクションでは、来場者の参加イベントは特に人気があり、夕暮れの湖畔で歌う「ル・クプル」の水辺のコンサートや大花火大会も大変な人気で観客があふれる状態でした。

翌22日には、緑小学校体育館で鈴木健二さんの記念講演と続いて「潤いある豊かな水と緑の21世紀ビジョン」をテーマにシンポジウムが開催され、森・水・自然環境と人々の調和などについて話し合いがされ、有益な提言がなされました。

今回のイベントによって、貴重な水資源を将来にわたって安定的に維持し、豊かな自然環境を守り、次世代に伝えていくことの大切さがさらに深く認識されたものと確信しております。参加者も中・高校生など若い人が多く、森や水



7月21日 放流中の宮ヶ瀬ダム

に関心をもってくれたことは、誠に心強いものを感じました。

水資源や水源地に関する素晴らしい情報が全国に発信できましたことは、関係各位のご協力・ご支援によるものであり、心から敬意と感謝を申し上げます。

「新しい時代のダム管理を考える研究会」報告について

国土交通省河川局河川環境課
ダム管理係長 横林 直樹

ダムは洪水調節、水資源の確保、電力供給など、国民生活や経済活動を支えている重要な社会資本のひとつです。

新しい21世紀は、これらの既存ストックを発展の目覚ましいIT等を活用しながら、より安全に効率的に、しかも社会情勢の変化に応じて、管理運用していくことが重要です。

特に、平成11年8月玄倉川での水難事故や平成12年9月の東海豪雨に見られるような、異常洪水における情報提供のあり方が注目されています。

このため、国土交通省河川局では、21世紀にふさわしいダム管理のあり方を研究するため、今年4月26日に10人の有識者で構成される「新しい時代のダム管理を考える研究会」（座長：中川博次立命館大学教授）を設置しました。（「新しい時代のダム管理を考える研究会」名簿のとおり）

研究会は4回の審議を経て、7月19日に「新しい時代のダム管理のあり方」と題する報告で提言をとりまとめ公表しました。

報告は次の5点がポイントになっています。

(1) 河川利用者への放流警報以外のわかりやすい情報提供

ダムからの放流にあたり、下流の河川利用者が自ら判断し、回避できるように、新

(五十音順、敬称略)

『新しい時代のダム管理を考える研究会』名簿

沖 大幹	東京大学生産技術研究所助教授	(水文)
三本木健治	明海大学不動産学部助教授	(法律)
篠永 善雄	愛媛県伊予三島市長	(自治体)
新 誠一	東京大学工学部総合試験所物理方面研究室助教授	(IT)
中川 博次	立命館大学理工学部教授	(水工水理学)
廣井 脩	東京大学社会情報研究所長	(情報)
廣瀬 利雄	(社)日本大ダム会議顧問	(ダム工学)
藤吉洋一郎	NHK報道局解説委員	(マスコミ)
水摩 嘉孝	(財)山口県土地開発公社 副理事長	(補助ダム)
恵 小百合	江戸川大学社会学部教授・荒川流域ネットワーク代表	(河川利用)

研究会の座長

たな行政サービスとして事前に、放流の可能性の有無、放流が予想される時間、雨量などの気象情報といった事前の注意情報を多様な手段を通じて、ダム管理者と河川利用者との間でやり取りを円滑に行う。(図1)

(2) 流域住民へのダム下流の浸水予想図の情報提供

流域住民の防災意識を高めるとともに、浸水が発生したときの避難誘導、水防活動を支援するため、ダム下流警報区間の浸水予想図を作成・公表し、流域住民に説明する。(図2)

(3) 日常からのダム管理情報の提供

河川利用者が安心して川やダムに親しむことができるよう、ダム管理所を「水源地域の防災情報センター」として活用し、ダム管理やイベント、水源地域の情報をホームページなどを通じて、日常から広く情報提供する。(図3)

(4) ダム管理実績や新技術を活用した

効率的なダムの活用と管理体制のあり方
管理実績を踏まえ、新技術を活用した貯

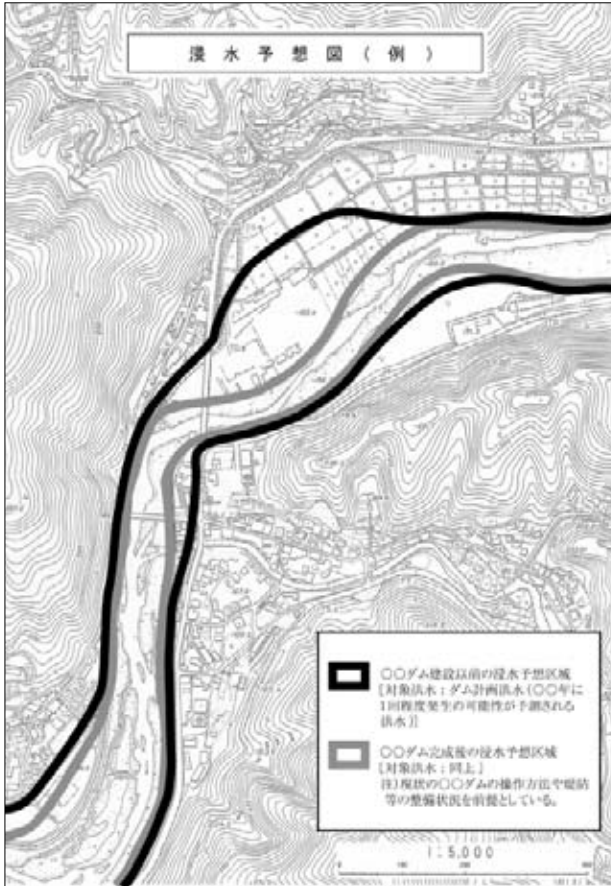


図2 浸水予想図

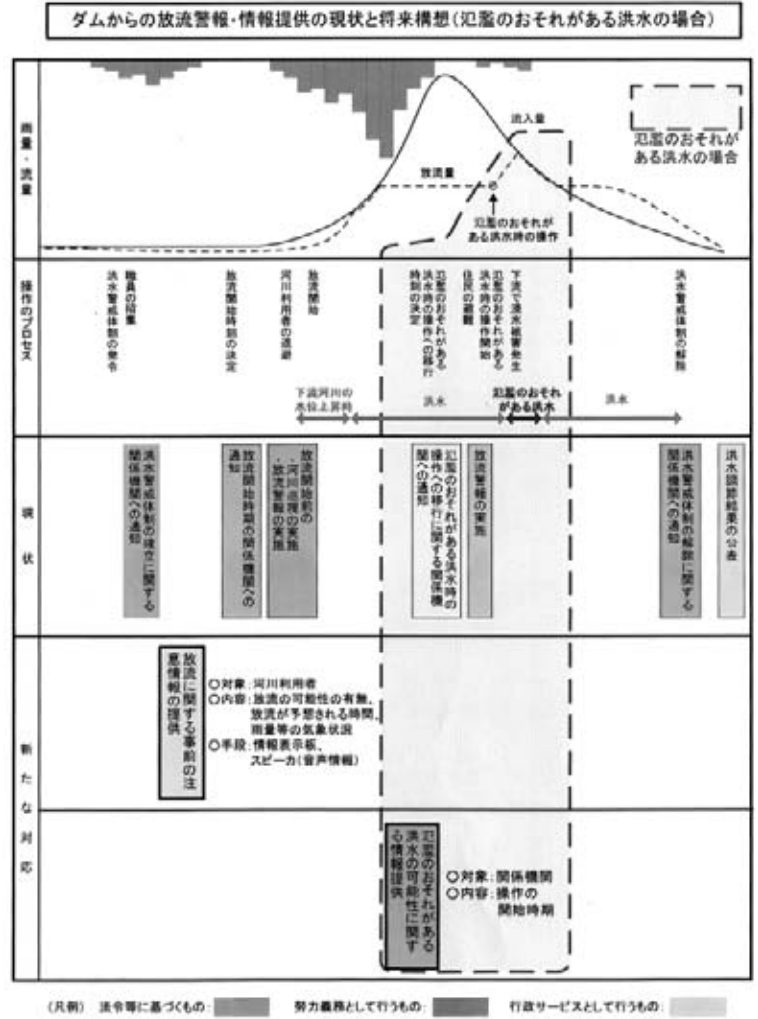


図1

◆さまざまな魅力にあふれた、ダム周辺の情報を提供します。

さまざまなイベントなどの情報を提供していきます。

- ・川と湖を利用したイベント
- ・桜餅花、紅葉など季節行事

水源地域の情報の提供をいたします。

- ・水源地域に生息する動植物情報
- ・地域文化遺産・特産品情報
- ・文化財、史跡情報
- ・周辺施設案内

図3

水池の効率的な活用と職員をダム管理所に常駐させない管理体制のあり方。

(5) 時代の変化に対応した既存のダムの有効利用のあり方

堆砂対策の推進や適切なメンテナンスの実施、ダムの弾力的管理の推進などによる既存ダムの有効な利用のあり方。

今後、この報告を受けて、提言を実行するために必要な制度の整備を始め、研究機関と連携した技術基準の検討を行います。また、国土交通省の直轄管理ダムの中からモデルダムを選定し、提言内容について、ダムの特性に応じた取り組みを行う予定です。



いしづか
石淵ダム
岩手県

「石淵湖ふれあいアドベンチャー」開催 〜森と湖の夏を満喫〜

石淵ダムは、岩手県南西部、北上川水系胆沢川に位置しています。昭和28年、日本初の多目的ロックフィルダムとして、8年の歳月と、延べ18万人の労苦により建設されました。ダム名は、石や岩のそそり立つ崖の淵を意味し、広大な胆沢平野の水がめとなっています。現在、下流約

2 km地点に再開発ダムとして胆沢ダムの建設工事が進められており、完成予定の平成25年には、その役目も新たな展開を迎えることとなっています。

毎年、「森と湖に親しむ旬間」で子どもたちを対象とした「石淵湖ふれあいアドベンチャー」を開催しております。これは、子どもたちにダム周辺の自然とふれあいながら、ダムや森林の役割を学んでもらうことを目的としています。

今年7月30日、胆沢町内の小学生を対象に父兄を交え45名の参加で行われました。当日、天候も快晴に

恵まれ、子どもたちのいきいきとした笑顔があふれていました。

イベント内容は、昨年完成した胆沢ダム学習でのダム説明と森林の働きについて学び、その後イベント広場へ移り、魚のつかみ取り、湖上遊覧、スイカ割り、丸太切り、建設機械試乗体験、石淵ダム現地見学などを行いました。なかでも人気の高い魚のつかみ取りでは、舞い上がる水しぶきのなか、子どもたちの歓喜の声絶えず、逃げ回るイワナをつかもうと懸命に走り回り、転んでも濡れになる子どももいました。湖上遊覧では、3、4人ずつボートに乗り込み、堤体周辺の説明を聞き、自



大きな丸太切りに挑戦

然を満喫しながら楽しんでいました。

この「石淵湖ふれあいアドベンチャー」を通して子どもたちもダムや自然の役割、そして自然の楽しさ、すばらしさを学べたと思います。参加した子どもたちは、夏休みの思い出をたくさん作ったと共に、森やダムなどを身近なものとして、大切にすることを意識を持って帰ったことと思います。

森と湖に親しむ旬間ふれあい実行委員会

松田 宏一

石淵ダムをバックに記念撮影



人気の「魚のつかみ取り」



建設機械試乗体験



まの
真野ダム
福島県

「はやま湖」森と湖まつり 2001大盛況

真野^{まの}ダムは、福島県の太平洋沿岸（浜通り地方）北部の飯館^{いいたて}村に位置し、全国では6番目、補助ダムとしては初めて採用された「RCD工法」を用いて平成3年度に完成した重力式コンクリートダム（堤高69・0m、堤頂長239・0m、総貯水容量3620万^m）です。洪水調節、水道用水及び工業用水の供給、発電並びに河川環境の保全を目的とした多目的ダムです。

真野ダムの貯水池は、「はやま湖」と命名され、今年の「森と湖に親しむ旬間」の行事では、10回目となる「はやま湖・森と湖まつり2001」を7月21

日（土）と22日（日）

の両日にわたり開催いたしました。数あるイベント祭事の中ではボート乗船が特に人気があり、子どもや家族連れに大盛況で、時間帯によっては待ち時間がデイスニーランドにも劣らない1時間にもなりました。その他にもボニー乗馬、丸太



ボート試乗を背景に虎捕太鼓の演舞

切り競争、もちつき大会などに人気が集まりました。また、ダム内部の監査廊見学では内部構造に驚いた人や、712段の階段の上り下りでは疲労で悲鳴を上げる人など、さまざまなお姿が見られました。

この「はやま湖」森と湖まつりの来場者は、近隣の市町村や県内外か



丸太切り競争

ら約4300人を数え、猛暑の中の対応も大変でしたが飯館村大倉地区と下流鹿島町上柵窪地区で構成する「真野ダム周辺開発協議会」の方々に、各関係機関の御支援を受けて盛大のうちに終了することができました。

このイベントの開催を通して、多くの人々に自然の大切さを認識してもらおうとともに、ダムと森や湖など水資源を身近なものとして感じたいただくことを期待しています。

福島県 真野ダム管理事務所
古内 忠勝



ボニー乗馬



しまちがわ
島地川ダム
山口県

平成13年度「森と湖に親しむ集い」 楽しかった97% また来たい77%

山口県の島地川ダムは佐波川総合開発の一環として、島地川に建設した多目的重力式コンクリートダムで、ダム湖(高瀬湖)の周辺道路約1.2kmでは路肩に桜・紅葉を植栽しています。またダム湖上流の新平ヶ原公園では、夏場はキャンプ場としてたいへんにぎわい、地域の人々に親しまれています。

昭和62年から実施されている「森と湖に親しむ旬間」(7/21~7/31)の一環として、7月31日に85名が新平ヶ原公園に集い、「森と湖に親しむ集い」のイベントが開催されました。

この「集い」は平成9年から実施しています。主催は、「島地川ダム周辺環境整備地区管理協議会」。この日は会長である新南陽市助役の開会挨拶で始まり、午前中は親子の水辺の教室、魚のつかみ取りが行われ、取れたヤマメは昼食時塩焼きにしました。初めての野外昼食体験に子どもたちは大喜び。午後からはターゲットゴルフや輪投げ、そして高瀬湖を巡視船でクルージングしました。

今後の参考にと初めてのアンケートを集めてみました。「集い」については「楽しかった」が97%、また「一番楽しかったものは」の

「一番楽しかったものは」の問いに対しては、「巡視船によるクルージング」が43%、「魚のつかみ取り」31%、「水辺の教室」10%。「また来てみたいか」の問いに対しては、「また来たい」が77%を占めました。また、「次の機会になにをしたいか」の問いに対しては、「水辺で遊びたい」が最も多く、次が「キャンプをしたい」「ボートで遊びたい」が続き



島地川ダム湖全景



湖上のクルージング



「親子の水辺の教室」説明中

ました。保護者のおひとり(女性・37歳)は「子どもはおもしろくて楽しかったようです。一日ゆっくり風に吹かれて、鳥の声も聞けて気持ちよかった」と感想を寄せていただきました。来年度からは、これらアンケートの結果を参考により楽しい「集い」を企画したいと考えています。

島地川ダム周辺環境整備地区管理協議会
石川 博基
(島地川ダム管理支所長)

大渡ダム水源の見学ツアー

8月16日、大渡ダムではダム及び河川等の重要性について下流住民の関心を高め、理解を深めてもらうことを目的として見学会を行った。

県内28名の参加者は、まずはじめにビデオによりダムの役割について説明を受けた後、操作室やダム堤体内のゲートを見学、また、モーターボートでダム湖の遊覧を行った。

最後に、毎年仁淀村主催で行われる「茶霧湖まつり」に参加した。

参加者は、この見学ツアーを通してダムや河川の役割・重要性などについての認識をより一層深めた様子であった。



えにわ湖慈しみフェア

水源地の環境保全を考える

8月12日、「第2回えにわ湖慈しみフェア」が開催された。

漁川ダムは、近隣4市への水道水源ともなっており、その環境保全是極めて重要な課題となっている。

最近のアウトドアブームに加え、家電リサイクル法が施行されたこともあり、えにわ湖周辺において、心

ない利用者によるゴミの散乱や不法投棄が目立ち始め、環境汚染が懸念されていた。

日頃、私たちが何気なく使っている水の大切さを訴えると共に、環境保全活動の一環として、流域住民に参加を呼び掛け「第2回えにわ湖慈しみフェア」が実施された。



「水の週間」ウォーターフェア01 東京・水の展示会

8月7日～10日の4日間、東京都庁第二本庁舎ロビーにおいて、水の展示会が実施された。この展示会は毎年8月1日の「水の日」、それを初日とする7日までの「水の週間」を中心に行われている。

今年の展示は2つのブースを設定し、第1ブースの水コーナーは「水をつかう・水をはこぶ・水をつくる」をテーマに首都圏の水がどこから来てどのように人々の下へ届くかを模型等を用いて展示した。

第2ブースの川コーナーは、関東

地方整備局等から、主に利根川水系のダム等に関する出展・展示が行われた。会場に訪れた人々は、熱心に各展示を見学、首都圏の水についての関心の高さが伺われた。



二風谷ダムフェスタ (森と湖に親しむ旬間)

7月27日、北海道沙流郡平取町にある二風谷ダム湖畔で二風谷ダム管理所、日高北部森林管理署振内事務所共催による「自然観察会」が開催された。

この観察会は地域の子どもたちがダム湖周辺の自然に親しむことを目的とし、二風谷子ども会児童及び保護者21名が参加した。午前中は、ダム湖畔の植物を観察した。終了後管理所で観察会の際に採取



した植物の花を使い草木染めが行われた。

午後からはダムの見学会が行われた。監査廊やゲート設備を見学し熱心に説明を聞いていた。放流中のゲートを見学した際は放流水の流速と轟音の迫力に大きな歓声があがった。

幾春別川総合開発

「三笠ダムフェスタ」

7月21日、北海道三笠市で北海道開発局が進めている新桂沢ダムと三笠ほんべつダムの効果や役割をPRする「三笠ダムフェスタ」が、地元三笠市が行う「みかさ遊園まつり」とジョイントして開催された。この行事は、平成6年から毎年行われている。

8回目の今年は、桂沢ダムで「第7回全道森と湖に親しむつどい」・「第4回湖と恐竜みかさ炎夏まつり」と同日開催された。

当日は好天に恵まれ3000人を超える来場者があった。参加者は2つのダム事業・関係機関のパネルを展示したPRコーナーや新桂沢ダム・三笠ほんべつダム見学など楽しみながらダムの学習を行った。



「森と湖に親しむ旬間」

全国行事 パネルディスカッション を振りかえって



高崎経済大学
教授

横島 庄治

シンポジウム

テーマ
「潤いある豊かな水と緑 ~21世紀水ビジョン~」

日時 / 7月22日 (日) 13:00 ~ 17:00

場所 / 清川村立緑小学校体育館

基調講演

鈴木 健二 (青森県立図書館長)

パネルディスカッション

パネリスト

高橋 裕 (国際連合大学上席学術顧問・東京大学名誉教授)

太田 猛彦 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

ジェームス 三木 (作家・脚本家)

坪内 ミキ子 (女優)

竹村 公太郎 (国土交通省河川局長)

コーディネーター

横島 庄治 (高崎経済大学地域政策学部教授)

7 月22日、宮ヶ瀬ダムのある神奈川県清川村で実施されたパネルディスカッションに参加した。

近年都市では、水不足に加えて、豪雨による都市洪水など今まで余り考えられなかった都市災害も頻発している。このような水問題は、平時には忘れられがちだが、ひとたび事が起きると、都市を危機に陥れる特性がある。水との係わりは情緒的であつたりするが、今回はあまり平和論的ではなく生活のなかの緊急問題として、水の安全保障論という視点から、パネリストの皆さんと話があつた。以下、その内容についてまとめてみる。

・長野県知事の「脱ダム宣言」以来、ダムの要不要論がクローズアップされている。ダム問題は建設に伴う負の面が強調されがちだが、まずは、ダムが果たしてきた役割を検証した方がよい。

・日本の川は急流で、最大流量と最小流量の差が大きい上に、最小流量よりはるかに多くの水を供給しなければならぬ。従つて水が豊富な時に貯めて、足りない時に下流に流す機能をもちダムが必要になってくる。

・ダムは計画から完成まで長いと半世紀近くもかかり、計画時に必要性が高くて、その後の社会情勢の変化で必要性が下がる場合があ

る難しい問題だ。

・日本のダムおよそ2700の総貯水量はようやくアメリカのフーバーダムの約半分である。いかに小さいダムを寄せ集めて四苦八苦しているかというダム行政の実体を考えると、個々のダムの検証だけでなく、日本がいかに水に苦慮しているか考えなければならぬ。

・ダムの要不要論以前に、行政が、時代要請に対応してどのような水需要計画を立てているかを住民に知らせ、行政と住民の合意形成が図られる必要がある。



都市のくらしと水の使い方

・21世紀に入り、生活のなかでの水対策をどう進めるかが大きな転換期を迎えている。都市で水を当たり前前に使えるのは、ある種文明の証だが、それを追い求め続けると、いくつダムを造っても足りないかもしれない。都市での水の使い方とはどうあるべきか考えるべき時が来ている。

・都市での雨水、下水処理水の利用が増え続けている。東京都墨田区では住民個々にも雨水利用を奨励している。

・雨水やお風呂の残り水は上下水の間にある中水と位置づけることができるし、これをタンクに貯めて、トイレで使うなどの家庭内

有効活用ができる。また、雨水を貯めることは、雨水が一度に下水道に流れることを防ぎ、水害対策にもなる。

・都市住民の雨水利用への取り組みは水源地域に対して水を大切に思う気持ちの証明にもなる。この取り組みに、行政が少しずつ補助をして、水害対策、水資源対策、地下水涵養の意義をよく説明すれば、さらなる普及が期待できる。

・個々が雨水を貯める試みは決して効率が良くないが、できる範囲での積み重ねが、しつかりした社会をつくることにつながる。

潤いのある社会を―水源地域の活性化―

・これからは、水を消費する都会と、供給する水源地域が、どのように交流できるかが大事である。

・ダムができる際、水没地域の住民の財産は補償できても、先祖伝来の思いや地域の歴史、文化には補償できない。水没地域の住民が最後に納得できるのは、お金ではなく、ダムへの協力によって下流域に貢献する公共的な精



神による。都会の人は水源地域に対する理解と感謝の念をもたねばならない。

・上下流相互のありがとう、どういたしましての気持ちから水を仲立ちとした良い関係が生まれる。また、都会からさまざまな形で上流へのUターンを考えるべき。

・都会の人が使ったきれいな水のために森が果たす役割は大きい。水源地域の森がきちんと管理されることで、都市生活が成り立っている。

・日頃都会のコンクリートジャングルで生活する子どもたちが水と緑に直に接することは水源地域の理解につながる。

・今年は一時期実問題として水不足に直面した。幸い台風11号が降らせた雨でその不安は取り除かれたが、できることから実践するという気持ちで水不足を乗り切れば、都会の人は水の大切さを再確認できるし、水源地の人の思いが都会に伝わる良い機会でもある。

まとめ

日本人は水に対する危機感が薄れてきている。これからは水に対して生きるための必須条件として配慮し必要な手を打たなければ、水の安全保障は成り立たない。水を好きだけ使える時代は終わっているかもしれない。そろそろ各家庭や地域のなかで、水を我慢して使つ、そして雨の水まで使つなどの水の新しい開発を実現していくことが必要である。

ダムの要不要を問う前に、日本の水事情が極めて深刻な問題になっているということ、極めて恐ろしい現象が潜んでいることを真剣に考える時代ではないだろうか。

【花とみどりの水源地コンテスト】・【流域経営功労賞】

実施及び受賞団体の概要

① 花とみどりの水源地コンテスト

ダム湖畔・湖畔林は、人々と美しい自然とのふれあいの場です。また、親しみやすい水と緑が豊かな自然環境であり、水辺空間です。

花木や四季の草花を植え・育て、この貴重なオープンスペースを「豊かなみどり」と「花いっぱい」の憩いの場として、より一層の進展を図るようこのコンテストを実施しています。

また、植栽活動を通して、都市と水源地の人々が相互に交流・連携し、共生して行くことが期待されています。

平成13年において行われたコンテストの概要及び受賞団体は、次の通りです。

- (1) 募集方法
団体単位で募集。ボランティア団体、町内会、老人クラブ、市町村等。
- (2) 応募方法
応募書類の提出
活動調査 団体の植栽活動等の状況全般に関するレポート（様式任意）
写真記録 植栽活動等の状況を撮影した写真4〜5点を編集した写真記録書
- (3) 受賞団体の選出・決定
厳正な審査を行った上で、活動の参加者・団体の数、植栽場所・面積の規模、花木の樹種・植栽本数、活動範囲等及び植栽後の生育状況を総合的に勘案し、活動の実績が優れている団体の選出・決定、表彰が行われました。
- (4) 受賞団体の概要
下表の団体が、その活動の顕著な功績を認められ、受賞しました。（表1）

② 流域経営功労賞

流域経営に主体的に連携・協力し、その参加や活動が継続的に実行され、流域経営の推進に効果的な役割を果たすと共に水源地の発展に果たす功績が顕著と認められる団体または個人を表彰・顕彰することを目的に、この賞を設定・実施しています。

その概要は次の通りです。

- (1) 対象分野
対象となる活動分野は、流域上下流の連携・交流活動等流域の活性化に協力する活動を広く対象とします。
- (2) 活動主体
上下流交流活動 水源地活性化活動
水源地広報活動 水源地対象諸活動等
団体及び個人が活動の主体となります。
- (3) 募集方法
市町村等行政主体
個人
募集方法
団体及び個人を対象として募集。
- (4) 受賞団体の選出・決定
応募申込は、「森と湖に親しむ旬間」全国行事実行委員会事務局へ、次の応募書類を提出。
活動調査
応募団体または個人の活動の状況全般に関するレポート
活動状況写真記録書
活動状況を撮影し、活動内容を広く紹介する写真5点を編集した写真記録書
- (5) 受賞団体等の選出・決定
厳正な審査を行った上で、流域経営活動に対する連携・協力の内容が顕著あるいは水源

地の活性化への貢献度が目覚ましい等その活動の功績が優れている活動2団体を選出し、「流域経営功労賞」が贈られました。

平成13年度受賞団体の概要
下表の2団体が、特にその活動の顕著な功績を認められ、受賞しました。（表2）

（表1）

平成13年度「花とみどりの水源地コンテスト」入賞団体				
	入賞団体	代表者	所在地	関係ダム等
金賞	野村町「ミレニアム子供の森づくり」	大塚 功	愛媛県野村町	野村ダム
銀賞	嶺南あじさい会	山崎 利寛	愛媛県伊予三島市	富郷ダム

（表2）

平成13年度「第2回 流域経営功労賞」受賞団体				
	受賞団体	代表者	所在地	関係ダム等
	和賀川の清流を守る会	伊藤 彬	岩手県	和賀川
	市民ネットワーキング相模川	川嶋 庸子	神奈川県	相模川

平成13年度「花とみどりの水源地コンテスト」入賞団体



金賞【野村町 ミレニアム子供の森づくり】四国（野村ダム）愛媛県

21世紀、野村町民に永く伝えていく記念事業として、「ミレニアム子供の森」づくりを行い、平成12年12月10日、野村ダム（朝霧湖）右岸において、植栽面積4ha、植栽花木クロガネモチ、アラカシ、ブナ、トウカエデ等13種、1,000本を植樹した。

参加団体及び人員は、町内小学校6校、野村高等学校、町職員及び一般参加者等11団体、約650人で、特に子供たちには、植樹とその生育を通して、「ふるさと野村町」を愛する心の成長が期待されるなど、将来に渡る活動が計画されている。

流域経営功労賞

平成13年度「第2回 流域経営功労賞」受賞団体



【和賀川の清流を守る会】 代表者 伊藤 彬
岩手県 関係ダム等・和賀川

和賀川流域の市町村、地域住民、関係団体及び事業所等が連携し、和賀川の清流を廃棄物や排水の汚染から守ることを目的に、北上市、湯田町、沢内村の住民、各種団体を構成員として、昭和47年4月に設立され、活動を続けている。

活動内容は、会報「清流」発行、河川パトロール、水質調査、自然に親しむ会・自然探索会開催など幅広く、流域住民への広報、水質保全意識の高揚、流域住民との交流に積極的に努めている。



【市民ネットワーキング相模川】 代表者 川嶋 庸子
神奈川県 関係ダム等・相模川

相模川は、神奈川県の水源地として、また沿川の農業・工業用水の確保、発電等多目的に活用されている。しかし、近年、水質悪化、水量減少、廃棄物の不法投棄などによる重大な環境問題も生じており、これらの問題点の認識と解決策の模索を目的に、運営世話人23人、会員約300人を構成員として団体が組織されている。

活動内容は、会誌「相模川通信」発行、イベント「川へ行こう」開催、ゴミ・水質・水生生物学学習会開催、広報活動・副読本の作成等広範にわたる。

今月号は表紙から裏表紙まで「森と湖に親しむ旬間」の特集号となっています。

人と自然、都市と水源地域が共生する新世紀をテーマに、「森と湖に親しむつどい」が多くの人々の参加により全国行事が行われました。そして、各地でいろいろな水源地見学ツアーや森と湖のまつりが展開されました。

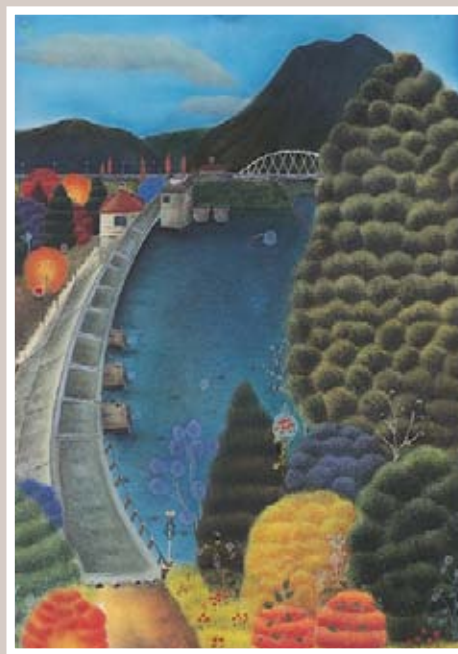
暑い中、ダムと森林、自然の恵みのなかで遊びながらも、照れば湯水、降れば洪水の恐れがあることを体で感じました。



金賞 中学生・高校生の部 沼尾 瞳(栃木県)
「初春の川治ダム」川治ダム



金賞 小学生低学年・幼年の部 勅使河原 百恵(愛知県)
「放水するダム」越戸ダム



審査員特別賞 中学生・高校生の部 神 のぞみ(岩手県)
「輝らめき」早池峰ダム